

N E X T 商店街プロジェクト

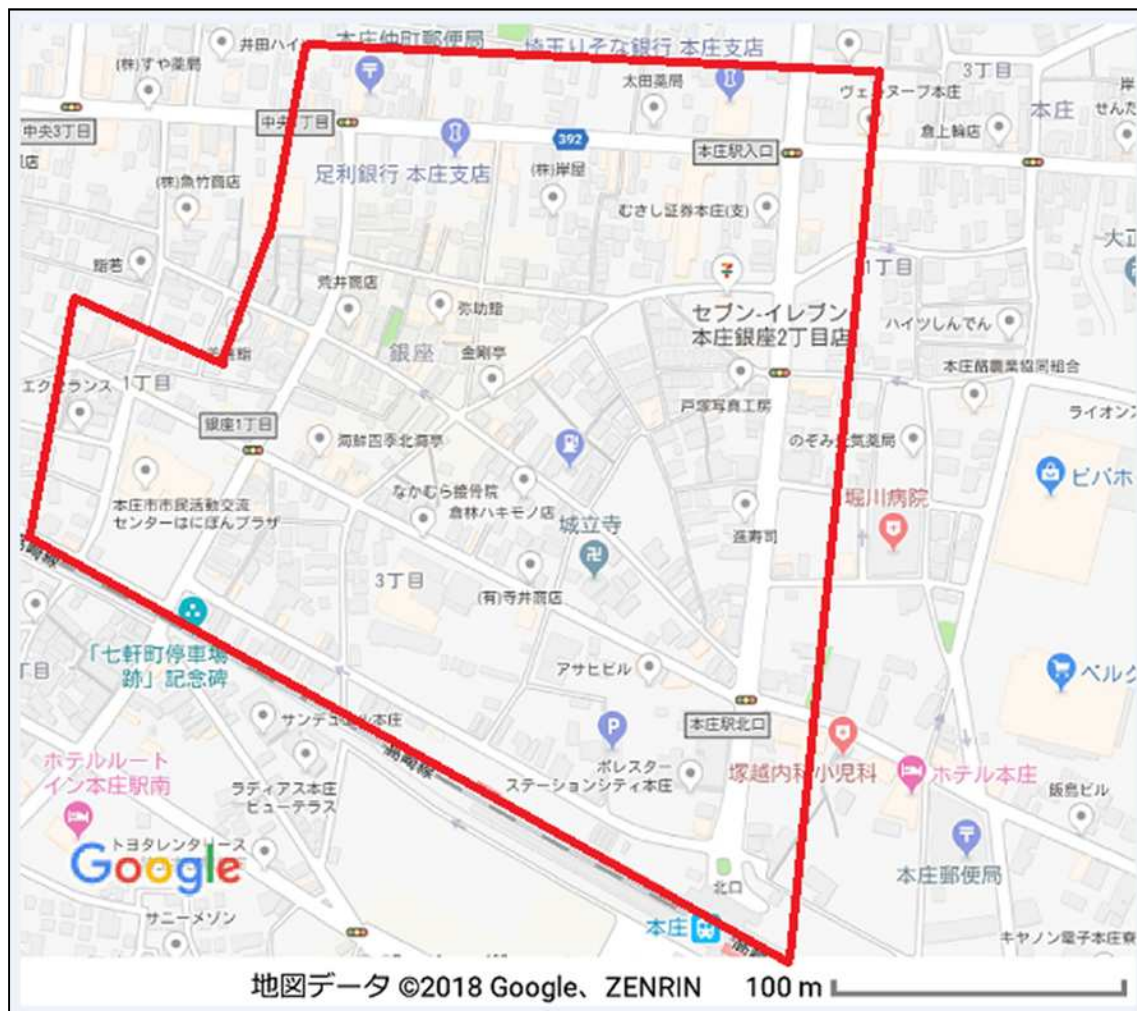


# 本庄市の取組



2020年3月26日  
本庄市商工観光課

## 対象地域



## 商店街の概要

商店街数：7

①銀座商店連盟、②三交銀座商店会、③本町三交商店会、④ニコニコ商店会、⑥本町躍進会、⑦朝日通り商店会

## 概要：

対象エリアは、中山道と銀座通りに接し、かつては旧本庄市のメインとなっていた地域。当時は、中山道と銀座通りに活気ある商店が軒を連ね、日曜日の歩行者天国では人が溢れていた。

まちなかは、①道路の幅が狭い②各店舗専用の駐車場がない③人口減少に加えて高齢化が進展④建物更新が厳しい状況である。


一方、JR東日本「本庄駅」の利用者や、平成27年度から設置された市民活動交流センター「はにぼんプラザ」により、人の流れが生まれており、対象エリアへの広がり期待される。



## 課題

- ・店主の高齢化、後継者不在などによる廃業で店舗が少ない。
- ・空き店舗が増加する一方で、貸し店舗になっている店舗が少ない。
- ・魅力的な場所や店舗が少なく、商店街の利用者が少ない。

## 対応方針

- ・路地や空き店舗など商店街という空間の魅力的な使い方をまちなかへ提案する。
  - ・まちの楽しみ方を提案したり、まちを訪れるきっかけを作る。
  - ・意欲的な商業者や創業者同士のネットワークを作る。
- 

## 取組

### ① 本庄暮らし会議

まちなかや空き店舗のリノベーション活動を行う。仲間づくりを目的にしたワークショップを開催。

- ・ 開催日：(1)9/15 (2)9/29 (3)10/14
- ・ 参加者数：(1)43人 (2)48人 (3)39人
- ・ テーマ：(1)本庄の今昔を比べる  
(2)まちあるき (3)ほしいもの・できることを考える



### ② ほんじょうマルシェ

魅力的な店や人と出会える、つながる、楽しめる場をつくることを目的にしたマルシェを開催。

- ・ 開催日：(1)6/2 (2)10/20 (3)3/29延期
- ・ 来場者数：(1)約1400人(2)約838人(3)延期
- ・ 出店者数：(1)22 (2)14 (3)延期
- ・ 場所：(1)(2)はにぽんプラザ (3)三交通り



## 取組

### ③ 本庄まちゼミ

店の魅力を磨く、勉強会などを通して店同士がつながることを目的に、店主が講師となりミニ講座を行うまちゼミを開催。

- ・ 開催日：(1)R1/9/1～30 (2)R2/2/1～29
- ・ 参加者数：(1)36店舗38講座 (2)24店舗26講座
- ・ 参加店舗数：(1)約505人 (2)集計中



↑ 講義型の講座

← 体験型講座



本庄まちゼミロゴ



## 効果(KPI)

### ① ワークショップ参加者数

目標 延べ100人 → 実績 延べ130人

### ② 空き店舗をリノベーションした件数


目標 1件 → 実績 0件

### ③ イベント来場者数

目標 1,000人 → 実績 1,119人

### ④ まちゼミ受講者数

目標 延べ800人 → 実績 集計中



## 効果(定性的)

### ① 人材のネットワーク構築

様々な世代・属性のメンバーが共に活動することで新たなネットワークが構築。企画力やデザイン性の高さで、従来ではアプローチできなかった層の取り込みにつながる。



### ② 継続的な活動

運営する人材、ノウハウ、仕組みが構築され、将来にわたり継続的な活動が見込まれる。



### ③ 商店街と支援機関等の関係構築

商店街と行政、行政と商工会議所の関係性が強化され、市と会議所が両輪で支援する体制が構築された。

## 広めたい手法

### ① 様々なアプローチによる人材の巻き込み

#### 「活動で人材を掘り起こし」

3つの取組やゲストを招いたプロジェクトの公開会議を通じ、出店者や参加者を運営側に巻き込んだ。



#### 「キーパーソン主導の運営と実施」

キーパーソンが「本庄暮らし会議」を開催し、若者など多くの人材を集める。今後、DIYによるリノベーションやマルシェなどの活動に巻き込む。



#### 「様々な世代、属性が集まる場づくり」

公開会議や各活動打ち合わせを通じ、メンバー内外のネットワーク構築や新たな取組に発展した。



## 広めたい手法

### ② 各活動のノウハウ共有

マルシェ、リノベーションと互いの強みやノウハウを生かし、マルシェで商店街空間の使い方や作り込みをリノベーションの視点から行うなどの事例が生まれた。



### ③ 市や商工会議所の伴走支援

市と商工会議所との両輪で支援。広報誌や記者会見を活用したり公開会議への参加などを通して、組織のトップへも情報を伝え、活動の追い風につなげた。



## 自走に向けた課題

### ① 主体性を持つ人材の不足

活動者は発掘できたものの、事業を実施する際の主体性のある人材の発掘と育成が課題である。



### ② 主体性のバランス

市と商工会議所が事務局を務めており、事業を行政がけん引している場面もまだ多い。今後も市と商工会議所がバックアップをしつつ、民間が主体性を発揮する場面を増やす必要がある。

